■総社古墳群の調査

前橋市総社町周辺には、現在の利根川西岸に沿って６基の大きな古墳が残されています。約２００年にわたってこの地域を治めた豪族の墓と考えられます。

特に７世紀代に造られた３基の方墳（四角い形のお墓）は、群馬県内の古墳と比べて特に規模が大きく、石室も豪華（ごうか）なつくりです。

今年度は総社古墳群のうち、古墳時代の終わりごろに造られた宝塔山古墳と蛇穴山古墳の調査を行いました。

宝塔山古墳

墳丘（ふんきゅう）の一つの辺の長さが６０ｍを測る大きな方墳で、７世紀半ばごろに造られたと考えられます。墳丘の周囲には幅の広い堀が巡り、一辺が１００ｍを超える大きさです。石室は綺麗（きれい）に加工した石を積み上げ、壁や天井には漆喰（しっくい）をぬって仕上げた豪華なつくりとなっています。

古墳の北側で墳丘の裾（すそ）が見つかりました。北側の裾と西側の裾が交わる場所で、北西の角に当たる場所になると考えられます。この発見で、古墳の大きさを正確に知るための手がかりを得ることができました。

墳丘の裾（宝塔山古墳北西）

蛇穴山古墳

葺石（蛇穴山古墳東）

墳丘の一辺が４４ｍほどの大きな方墳で、宝塔山古墳に続く７世紀後半に造られました。宝塔山古墳よりも大きさは小さくなりますが、墳丘の周りには二重の堀をめぐらせ、堀と堀の間には葺石（ふきいし）を施すなど豪華なつくりとなっています。

石室の天井や壁は、巧みに加工した巨大な一石でつくられており、石材加工技術の粋（すい）をあつめたつくりとなっています。

今年度の調査で、墳丘にも見事な葺石を施していたことが初めて分かりました。墳丘は堀底付近からていねいに葺石を施し、墳丘全体がいくつもの段を積み上げたようなつくりであったことが明らかになりました。

令和３年度の発掘調査成果　い・せ・きワールドｉｎ前橋 2022
前橋市教育委員会事務局　文化財保護課／令和４年３月発行
住　所：前橋市総社町三丁目１１－４
電　話：０２７－２８０－６５１１　FAX：０２７－２５１－１７００
Ｅメール：bunkazai@city.maebashi.gunma.jp

い・せ・きワールド in 前橋 2022

令和３年度の発掘調査成果

南橋村 45 号墳（北から）

古墳の周堀から見つかった大刀

大刀から３ｍ離れて見つかった鍔

■古墳の周堀から大刀と鍔が見つかる！（上細井中西部遺跡群 No.4）

この古墳は、昭和３０年に発行された『南橋村誌』の中で南橋村４５号墳と報告されています。古墳は、後世の耕作などにより墳丘（ふんきゅう）や玄室（げんしつ）の大部分は壊されてしまっていましたが、古墳の周堀（しゅうぼり）から大刀（たち）と鍔（つば）が見つかりました。

各発掘調査のおもな成果と内容

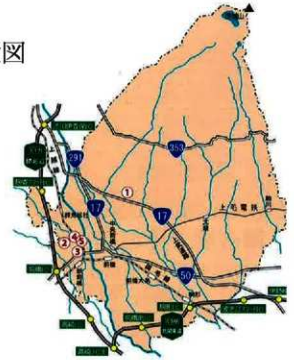
■上細井中西部遺跡群 No. 4

縄文時代や奈良・平安時代の住居跡、土坑（どこう）、古墳、噴砂（ふんさ）などが発見されました。

地震の時に地割れ（じわれ）の中を液状化（えきじょうか）した砂が噴き上がることがあります。その痕跡（こんせき）が噴砂です。平安時代の初め、弘仁（こうにん）9年（818年）関東地方でも地震が発生し、群馬県でも大きな被害がありました。今回見つかった噴砂も、この時にできたものと思われます。

令和３年度のおもな発掘調査地一覧・位置図

No.	遺跡名	所在地	時代
①	上細井中西部遺跡群No. 4	青柳町、上細井町	縄文・古墳・奈良・平安
②	推定上野国府跡 元総社蒼海遺跡群	元総社町 総社町総社	縄文・古墳・奈良・平安
③	西部第一落合遺跡群	元総社町	古墳・奈良・平安・中世
④	宝塔山古墳	総社町総社	古墳
⑤	蛇穴山古墳	総社町総社	古墳



■元総社蒼海遺跡群（143）【蒼海城の堀跡】

室町時代、上杉氏が上野国（こうずけのくに）の守護（現在の都道府県警にあたります）になると、その家来の長尾氏が蒼海城を本拠とし、城の改修を行ったと言われています。

元総社蒼海遺跡群（143）では、蒼海城の堀跡が見つかりました。この堀跡は、蒼海城本丸西側を南北方向に走る堀の延長線上にあります。

見事に掘り込まれた堀跡

■元総社蒼海遺跡群（146）

元総社町の宮鍋神社（みやなべじんじゃ）の南側で行った調査では、古代の役所に関係する可能性のある建物跡を１棟発見しました。

古代の役所などを作る場合、建物の基礎工事を行うことがあります。この基礎工事は、地面を掘ったあと、その中に少しずつ土を入れて、棒などでつき固める版築（はんちく）という工法で行われます。できあがった建物の基礎は、コンクリートのように固くなり、丈夫な建物を建てることができます。

今回の調査では、このように版築をして作られた建物の基礎が発見されました。実際に掘ると、とても固くて金属のスコップでも掘るのが大変でした。発見された建物の基礎は、東西が１３ｍほど、南北５．４ｍ以上あります。

5～10ｃｍくらいずつ固められた版築

■西部第一落合遺跡群（４）

元総社町の釈迦尊寺（しゃかそんじ）近くの西部第一落合遺跡群（４）では、平安時代の集落と石組みの遺構（いこう）が見つかりました。

遺構は、河原石が平らに敷き積まれています。木質（もくしつ）を含んだ鉄釘（てつくぎ）が多く出土していることから、中に木棺（もっかん）が納められていたと考えられます。

石がきれいに並べられた遺構